

令和7年度愛知県献血推進協議会議事録

(1) 日時・場所

令和8年1月29日(木) 午後2時から午後3時30分まで
愛知県議会議事堂1階 ラウンジ

(2) 出席委員(15名)(順不同、敬称略) (注)◎:議長(会長)

奥村 和久、倉元 須麻子、伊藤 和子、久保田 昌俊、木内 久晃、近藤 祐子、◎山本 晃士、岡田 麻優、錦見 尚道、杉浦 正和、松下 正、坂口 千夏、白橋 秀明、種井 直樹、長谷川 勢子

(3) 代理出席者(5名)(順不同、敬称略) (注)カッコ内は委員氏名

渡邊 勝(中角 竜二)、堀川 和宏(竹内 典之)、寺田 剛(竹内 清美)、祖父江 達夫(坂川 智)、坪井 信二(栗木 雅洋)

(4) 欠席委員(5名)(順不同、敬称略)

清水 隆史、永尾 孝広、本多 恭子、田那村 収、青山 潤子、青山 泰司

○ 開会

医薬安全課・濱島担当課長

定刻になりましたので、ただ今から「令和7年度愛知県献血推進協議会」を始めさせていただきます。

最初にお断りですが、本県保健医療局長の長谷川ですが、急遽、他の業務が入りましたので、本協議会冒頭からの出席はできておりません。業務終了後、可能であれば、会議途中から出席させていただきます。

それでは、開催にあたりまして、愛知県保健医療局生活衛生部医薬安全課長の伊藤から御挨拶申し上げます。

1 挨拶

医薬安全課・伊藤課長

本来であれば、保健医療局長の長谷川が御挨拶申し上げますところですが、所用により、会議途中からの出席となり、御挨拶申し上げることができないことをお詫び申し上げます。

私の方から、協議会開会に際しまして、御挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、「令和7年度愛知県献血推進協議会」に御出席いただき、ありがとうございます。

本日の協議会は、愛知県における献血の普及啓発、そして、血液を安定的に確保・供

給するための体制づくりについて協議するために毎年開催しているものです。

さて、本県における令和7年度の献血の状況でございますが、12月末時点の献血者数は21万5千人を超え、目標達成率74.0%と概ね順調に進んでおります。

一方で、血液製剤に対する需要が増えているにもかかわらず、献血が可能な人口は減少しており、特に若年層の献血率は低い傾向にあります。今後も血液事業を安定的に継続していくためには、広く県民に献血についての理解を深めていただく必要があります。

そこで、本県では、献血を推進するために、現在、「はたちの献血キャンペーン」や「卒業献血キャンペーン」など、若年層に向けて啓発活動を実施しているところです。

皆様の日頃からの御尽力、御協力に感謝申し上げますとともに、県民の献血への理解が深まるよう、しっかり取り組んでまいりますので、よろしくをお願いいたします。

最後に、本日の議題は「愛知県献血推進計画」について、今年度の進捗状況と令和8年度の計画案の2つとなります。委員の皆様からの積極的な御意見をお願いしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

資料確認・議長選出

医薬安全課・濱島担当課長

本日の会議は、「愛知県献血推進協議会設置要綱」の第6第2項により、原則公開となります。また、要綱第9により、本日の会議録は、後日、御出席の委員の皆様にご確認いただいた後、当課のWebページで公開します。

続きまして、本日御出席の委員及び代理者の方々を御紹介させていただくところですが、時間の都合もありますので、お手元にお配りしております配席図をもちまして紹介に代えさせていただきます。

ここでお手元の資料の確認をお願いします。

(資料の確認)

はじめに、本協議会の会長の選出を行います。会長は「愛知県献血推進協議会設置要綱」第5の規定により「委員の中から互選により選出する」とこととされております。委員の皆様から会長の立候補もしくは推薦はございますでしょうか。

名古屋市・白橋委員

名古屋市健康福祉局生活衛生部の白橋です。

会長には、愛知県赤十字血液センター所長の山本様を推薦します。

医薬安全課・濱島担当課長

白橋様から、愛知県赤十字血液センター山本所長の推薦がございましたが、委員の皆様

様いかがでしょうか。

(一同異議なし)

それでは、山本所長に会長をお願いします。

続いて、議事に移らせていただきます。なお、要綱第5の2の規定により、「会長は会務を総理し、会議の議長となる」こととされておりますので、山本所長には議長をお願いします。

それでは、議長席をお願いします。

2 議題

議長・山本会長

ただ今、議長に御指名いただきました、愛知県赤十字血液センターの山本です。よろしくお願いたします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。皆様には円滑な議事進行に御協力をお願いします。

本日の議題は2つです。御意見等につきましては、すべての議題が終わった後で、一括してお伺いしますのでよろしくお願いします。

はじめに、議題(1)の「令和7年度愛知県献血推進計画の進捗状況」について、事務局から説明をお願いします。

(1) 令和7年度愛知県献血推進計画の進捗状況について

医薬安全課・杉浦主査

医薬安全課の杉浦と申します。

令和7年度愛知県献血推進計画の進捗状況について、説明いたします。お手元の「愛知県献血推進協議会 資料」の1ページを御覧ください。

はじめに、愛知県における年度別献血目標及び達成状況について、御報告します。

表の下段、2025年度の献血者数の欄を御覧ください。今年度の目標達成状況ですが、目標の290,661人に対しまして、12月末時点で215,001人であり、達成率は74.0%となっております。また、市町村別の実績については、2ページ、3ページを御覧ください。

次に、資料の4ページを御覧ください。4ページ以降の数値につきましては、年度ではなく、1月から12月までの年計となっております。

ページ上段を御覧ください。愛知県における2025年の献血者数は287,315人で、前年より5,052人減少しております。ページの下段の全国の2025年の献血者数は、速報値では4,988,605人となっており、24,459人減少しております。なお、未集計部分は空

欄とさせていただきます。

資料の 6 ページを御覧ください。年代別の献血者数の推移です。ページ上段が愛知県の状況、ページ下段が全国の状況で、年代別構成比のグラフを見ていただきますと、双方におきまして、献血者数は 50 歳代が最も多くなっております。また、愛知県では 40 歳代及び 50 歳代で全体の半数以上を占める一方で、10 歳代から 30 歳代が占める割合が約 3 割となっております。

続いて、7 ページの高校生献血者数の推移についてを御覧ください。高校生の献血者数は、全国、愛知県ともに 2024 年度に増加しましたが、引き続き、若年層の献血者数の確保が課題となっております。

次に 8 ページ、9 ページを御覧ください。2006 年から 2025 年までの愛知県と全国の年代別献血状況をお示ししております。これによりますと、本県の人口 100 人当たりの献血者数を示す献血率において、10 代にしましては、減少傾向にありましたが、2017 年から増加に転じました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020、2021 年に減少しましたが、2024 年、2025 年は 2018 年に近い水準に戻っております。

次に、資料の 14 ページを御覧ください。ページ中段の移動採血における献血状況ですが、職域における献血者数が全体の約半数を占めております。また、ページ下段の職業別の状況を見ましても、会社員が 6 割以上を占めており、企業、事業者の方に多大な御協力をいただいております。

続いて、資料の 16 ページを御覧ください。愛知県における血液製剤の供給状況の推移を示しております。2025 年は実本数で、愛知県内の医療機関に成分製剤を 275,528 本供給しております。前年と比較して増加しておりますが、医療機関からの供給要請に対して、滞りなく供給ができております。

資料の 17 ページを御覧ください。その他として、献血者の状況をまとめております。

(1) の回数別実献血者数ですが、2025 年も依然として 1 回だけの献血者が約 6 割を占めております。この方々をいかにしてもう 1 回献血会場へ足を運んでいただくかが課題となっております。

次に、献血目標量を確保するために実施した措置について御報告します。資料の 18 ページの令和 7 年度献血事業概要を御覧ください。

まず、(1) の若年層に対する啓発資材の配布についてですが、リーフレット「はじめての献血」を作製し、高校 1 年生及び新 20 歳を対象に配布いたしました。また、愛知県赤十字血液センターと協同し、7 月から「10 代夏の献血キャンペーン」として、県内の高校 2 年生、3 年生にリーフレットを配布した他、12 月から「卒業献血キャンペーン」として、県内の高校 3 年生にリーフレットを配布しました。他に、(2) 「はたちの献血キャンペーン」や (3) 夏休み親子血液教室を実施いたしました。

次に (4) 「複数回献血キャンペーン」の実施では、年 2 回以上の 400mL 献血を推進するため、「400mL 複数回献血キャンペーン」を行っております。2025 年度は、7 月か

ら8月までをお約束カード配布期間、1月から2月までを記念品配布期間に設定し、キャンペーンを展開しております。本キャンペーンを周知するため、ポスターを作製し、市町村や県内の施設などに配布し周知しました。また、複数回の400mL献血に御協力いただいた方には、記念品を配布しております。

次に、19ページを御覧ください。(5)「愛の血液助け合い運動」についてです。毎年7月の1か月間、全国一斉に展開されています。本県でも、市町村における広報誌掲載、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」を活用したポケットティッシュの配布等を県内各地において行いました。また、(6)愛知県献血運動推進大会を7月25日に開催し、長年献血に御協力いただきました個人及び団体に大臣表彰、知事感謝状等を贈呈するとともに、愛知県立松蔭高等学校 和太鼓部を招いて公演を行いました。

続いて、20ページを御覧ください。献血推進組織等の育成として、(8)のとおり献血推進リーダーへの講演会を開催しました。また、名古屋市や中核市を交えて、(9)の血液事業担当者会議を開催しました。

最後に、21ページを御覧ください。(12) 広報関係事業結果につきましては、表にありますように、テレビ、ラジオ、新聞等できるだけ多くの媒体を活用いたしまして、献血について広報活動を行いました。また、昨年度から引き続き、SNSでの啓発活動に取り組み、「愛の血液助け合い運動」や「官庁街献血」等での発信を実施いたしました。県公式LINEの開封率等や、県公式Xのいいね数等は資料に記載のとおりです。

今年度の愛知県献血推進計画の進捗状況については以上です。

議長・山本会長

ありがとうございました。

それでは、追加の説明を血液センターの方からお願いします。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一部長

愛知県赤十字血液センター事業推進一部長の鈴木でございます。平素より血液事業につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

ただ今、杉浦主査から御説明がございましたが、実際に血液事業を実施する立場として、私からも補足で御説明申し上げます。恐れ入りますが、着座にて失礼いたします。

それでは、資料1ページ、年度別献血目標及び達成状況についてです。当センターでは、供給計画及び国から示される原料血漿確保量等に基づき、必要な献血者数を算定し、過不足のない採血に努めております。令和7年度は、12月までの献血者数の実績において、達成率は74.0%となっております。年度末には達成率99.2%に到達する見込みです。

続きまして、資料4ページを御覧ください。令和7年の献血者数は287,315人で、前

年の 292,367 人と比較すると、5,052 人の減少、対前年比 98.3% (1.7%減) となり、前年を下回っております。

一方、供給状況です。資料の 16 ページを御覧ください。製剤ごとに増減はあるものの、令和 7 年の供給数は 275,528 本で、前年の 268,104 本と比較して 7,424 本の増加、対前年比 102.8%となり、供給量は前年を上回っております。

このように、献血者数が前年を下回る状況にある中でも、献血会場における医療機関の需要に応じた献血種別の案内、また、成分献血では献血者一人ひとりの体重に応じた最大採血量の範囲で採血量を調整するなど、効率的な採血に努めてまいりました。現在、輸血用血液の需給管理は、東海北陸ブロック血液センターにより、東海北陸 7 県を一括して行っておりまして、こうした取り組みにより、東海北陸ブロック全体として必要量を確保することができております。本年度も医療機関の需要に対して概ね安定的に供給できているものと認識しております。

次に、14 ページを御覧ください。高校生の献血者数は 5,673 人で、前年から 389 人減となっております。一方、高校生以外の学生につきましては、令和 7 年は 16,886 人で、前年から 240 人増となっております。

資料にはございませんが、参考として学校での実施状況でございます。高等学校での献血実施校数・人数は、令和 6 年が 15 校・1,238 人、令和 7 年が 17 校・1,142 人で、前年より実施校数は 2 校増加しましたが、献血人数は 96 人減少しております。大学については、令和 6 年が 31 校・3,764 人、令和 7 年が 32 校・5,080 人で、前年と比較して実施校は 1 校増加、献血者数は 1,316 人増加しております。実施校数自体は 1 校の増加ですが、バスの配車台数は、前年は 92.5 台分のところを、令和 7 年は 122 台となっており、若年層の確保に取り組んでいるところでございます。

さらに、資料 6 ページを御覧ください。10 代全体の献血者数は 13,003 人で、前年より 166 人減少となっております。16、17 歳といった献血可能年齢に達した早い時期での献血体験は、その後の継続献血につながる重要な機会であると考えております。そのため、今後も行政機関や教育委員会、関係者の皆様との連携をさらに強化し、高校献血の実施に加えて、献血実施と併せた事前セミナーの開催など、できる限り多くの方が献血に触れられる機会の提供に努めてまいります。

また、大学生を中心とした活動として、愛知県学生献血連盟の皆様にも積極的に御協力いただいております。「サマー献血キャンペーン」や「クリスマス献血キャンペーン」などでは、同世代に向けた発信力を発揮いただいております。

当センターでは、高校・大学・専門学校などの学生を対象に、今年度 12 月末までに 97 回の献血セミナーを開催し、740 名に御参加いただきました。加えて、中学校・高校の職場体験も積極的に受け入れ、輸血用血液の検査・製剤・供給部門の見学や、献血の呼びかけといった業務体験をしていただくとともに、高校生については献血にも御協力いただいております。

さらに、小学生や幼少期の方々に向けた啓発にも取り組んでおります。ショッピングモール等のイベントにおいて、献血運搬車両の展示やパネル展示、「まねっこ献血」の実施、けんけつちゃんサンバイザーの配布などを行い、献血を身近に感じていただく機会を提供してまいりました。

次に、献血Web会員サービス「ラブラッド」についてです。現在 257,976 名の登録をいただいております。メール等による献血協力依頼をはじめ、予約や事前Web問診、検査結果の閲覧など、献血者の利便性向上に大きく寄与しています。今後も「ラブラッド」の簡易登録の促進と、年間複数回の献血につながる取り組みを引き続き進めてまいります。

説明は以上になります。

議長・山本会長

ありがとうございました。

では、次に議題（2）に移りたいと思います。「令和8年度愛知県献血推進計画（案）」について、事務局から説明をお願いします。

（2）令和8年度愛知県献血推進計画（案）について

医薬安全課・杉浦主査

令和8年度愛知県献血推進計画（案）について、説明させていただきます。

「愛知県献血推進計画」につきましては、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第10条第4項の規定により、国の基本方針と国の献血推進計画に基づき、毎年度、翌年度の都道府県献血推進計画を定めることとなっております。国の献血推進計画につきましては、例年3月頃に告示されるため、現時点では案が示されているのみですが、それを参考に今回、県の計画（案）を作成しました。本日、委員の皆様からの御意見を踏まえて、事務局が告示された国の計画を確認後、「令和8年度愛知県献血推進計画」を決定する予定としております。

はじめに、資料の22ページを御覧ください。令和8年度愛知県献血推進計画（案）の今年度からの主な変更点について、3点御説明いたします。

まず1点目は、第3 献血目標量の設定について、採血計画及び国の原料血漿確保目標量に基づき、献血目標量及び献血目標数を改めております。

2点目は、第4（3）複数回献血の推進について、厚生労働科学研究により、「初回献血の年度にもう1回献血を実施すると献血継続率が高い」ということが明らかになっているため、国の計画案第2の2（ウ）複数回献血の推進の項において、「特に初回献血者に対して、重点的に継続的な献血への協力を呼びかける」旨の記載が追加されたことに基づき、県の計画においても語句を追加しております。

23ページを御覧いただきまして、3点目は、第4（4）複数回献血キャンペーン等の

実施について、第4（1）若年層、幼少期への普及啓発の一環として、主に高校生を対象として実施する本県独自の「10代夏の献血キャンペーン」及び「卒業献血キャンペーン」に関する記載を追加しております。

次に、24ページを御覧ください。令和8年度愛知県献血推進計画（案）について説明させていただきます。なお、下線部分は今年度の計画との変更点となり、主に献血目標と語句の修正を行っております。

第1では献血の推進に関する「基本的な考え方」を、第2では献血受入計画に関わる県、市町村、血液センターなどの「関係者の役割」について記載しておりますが、今年度と内容には変更はございません。

次に、第3では「献血目標量の設定」について記載しております。25ページの表「種類別目標数」のとおり設定しております。献血目標者数は、全血献血において、200mLが5,220人、400mLが180,416人、成分献血において、血漿成分が73,990人、血小板成分が34,860人、以上、合計294,486人の献血者の確保を目標とします。この目標値は、今年度と比較して3,825人の増となっております。

また、令和8年度の愛知県における献血目標量は、合計1,084,602単位で、今年度と比較して30,709単位の増となっております。なお、この表でお示ししています献血目標は、令和8年度に必要となる血液の需要見込み、愛知県での過去の輸血用血液の供給実績と、国が算出した令和8年度の原料血漿の確保目標量、さらに、血液製剤の期限切れや検査不合格等も考慮した上での数量となっております。

次に、資料の29ページ、30ページを御覧ください。令和8年度の市町村別の献血目標を示しております。各市町村の200mL献血と400mL献血の目標は、一番右端の列にある各市町村別の過去3年間の移動採血車の配車実績から算出しております。また、血漿や血小板の成分献血の目標については、血液センター及び献血ルームで採血を実施しますので、30ページの表の一番下、固定施設に計上しております。市町村におかれましては、先ほどの「第2 関係者の役割」の2にありますように、引き続き「血液センターの献血受入計画の実施を確保するため、献血会場の確保等の協力」をお願いいたします。

続きまして資料を前に戻っていただき、25ページの中段を御覧ください。第4の「献血目標量を確保するために必要な措置」には、献血を推進するための取組について記載しております。

1は、献血に関する普及啓発及び広報活動の実施です。（1）「若年層、幼少期への普及啓発」では、ア 高校生、大学生等の献血可能な若い世代を対象としたリーフレット等を作製し、配布します。また、小学生の親子を対象とした親子血液教室を開催し、親子が献血に触れ合う機会を設けます。

続いて、ウ SNSを含むインターネット等を主体とした情報発信や、報道機関等の協力を得て、実効性のある効果的な広報活動を展開いたします。

続いて26ページのカ 血液センターが実施する「献血セミナー」等での体験学習の機

会を学校等において積極的に活用していただけるよう情報提供いたします。

次に（３）の「複数回献血の推進」については、若年層を含む幅広い層に拡大するよう、血液センターと協力し、キャンペーンを実施いたします。また、はじめに申し上げましたとおり、献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を働きかける等により献血者へのサービスの向上をするなど、継続的な献血への協力が得られるよう、複数回献血の推進を図ります。

次に（４）の「献血推進キャンペーン等の実施」では、７月の「愛の血液助け合い運動」、そして、現在実施しておりますが、１月から２月までの「はたちの献血キャンペーン」を令和８年度も実施します。また、主に高校生を対象とした、本県独自の７月から９月までの「10代夏の献血キャンペーン」及び12月から３月までの「卒業献血キャンペーン」を令和８年度も実施します。

続きまして、２の献血運動推進大会の開催につきましては、今年度と同様、７月に愛知県の献血運動推進大会を開催し、知事感謝状を贈呈したいと考えております。

続きまして、資料の27ページを御覧ください。第5「献血の推進に際し、特に配慮すべき事項」と、第6「その他献血の推進に関する重要事項等」については、語句の整理以外で、今年度と変更はございません。

なお、参考資料の9ページから「新旧対照表」をつけておりますので、参考にしてください。また、資料の31ページには血液事業（案）の概要を、32ページから33ページには2026年度献血推進のための具体的方策（案）を示しております。

2026年度も今年度と同様に、各種事業を展開してまいりたいと考えております。

以上です。

議長・山本会長

ありがとうございました。

では、追加の説明がありましたら、血液センターからお願いします。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一部長

愛知県赤十字血液センター事業推進室部長の鈴木でございます。

ただ今、杉浦主査から御説明がありましたが、令和8年度計画における目標人数等につきまして、私から補足で御説明を申し上げます。恐れ入りますが、着座にて失礼いたします。

はじめに、令和8年度の輸血用血液製剤の需要見込みについて御説明いたします。

まず、赤血球製剤については、東海北陸ブロック全体として、全血献血から製造される分については、令和7年度と同程度の需要を見込んでおります。一方、成分採血から製造される製剤につきましては、血漿製剤は大きく需要が増加し、血小板製剤はわずかに減少すると見込んでおります。

これらの需要見込みを踏まえて、東海北陸ブロック内7県の必要量を算出する際には、地域の人口偏在や過疎化の進行を踏まえ、献血可能人口が都市部に集中している状況を考慮しています。その上で、献血可能人口に「昼間人口の流出入率」を加味した独自の構成比率を用いて、7県で役割分担を行っております。

それでは、資料25ページを御覧ください。令和8年度の愛知県の献血目標人数は、294,486人です。前年度の290,661人と比較すると、3,825人の増加となります。これは、東海北陸ブロックの7県すべてで献血可能人口が減少しているものの、愛知県が最も減少率が小さかったため、結果として構成比率が上昇し、目標人数が増加したものでございます。

次に、成分採血者数についてですが、こちらは各県に設置している固定施設、いわゆる献血ルームの採血ベッド数に応じて役割分担を行い、県ごとの特性を加味しながら調整する仕組みで、安定した血液の確保を目指しています。その結果、成分献血は前年度より3,937人の増加となっております。

続いて、原料血漿について説明いたします。令和8年度においても、国内献血由来製剤の需要や製造販売業者の在庫、日本赤十字社の貯留在庫などを総合的に判断し、全国で1,240,000Lの確保目標量を設定しています。東海北陸ブロックとしては約175,000L、そのうち愛知県では73,157Lを目標としております。

また、Web会員サービス「ラブラッド」について申し上げます。令和8年1月5日をもって、献血カード及び献血手帳の発行・更新を終了いたしました。今後はスマートフォン向けの「ラブラッド」アプリの利用促進を進め、より便利に献血情報を取得できる環境づくりを進めてまいります。

最後に若年層・幼少期への普及啓発について申し上げます。高校生、大学生に加え、献血可能年齢未満の世代に対しても、献血セミナーや体験型イベント等を積極的に実施し、献血に触れ合う機会を創出することで、将来の献血基盤の強化につなげてまいります。

説明は以上になります。

議長・山本会長

ありがとうございました。

それでは、2つの議題を一括しまして、委員の皆様から御質問、御意見等の御発言をいただきたいと思っております。それぞれの立場から広く御意見をいただきたいと思っておりますので、私の方から指名させていただきます。

はじめに、名古屋大学医学部附属病院の松下委員いかがでしょうか。

名古屋大学医学部附属病院・松下委員

名古屋大学医学部附属病院の松下でございます。

昨日も名大病院へ献血バスに来ていただきまして、例年よりもたくさんの職員が来てくれました。現在、B型がかなり厳しいというお話を伺って、色々な職員に声をかけてもらった次第です。

ここ数年、高校生献血の話題がたくさん出るようになってきていて、今日も何かお話があるのではないかと思います。よく高校生献血で紹介される栃木県のデータを拝見すると、10代の献血率が11%という高い数値になっていて、全国の倍ぐらいあるのですが、高校献血の実施率も80%を超えるぐらいです。おそらく栃木県では高校に献血バスが来るのが普通という、自然な形になっているのではないかと思います。

どうしても愛知県のように人口の多い地域は、たくさん献血していただける事業所を中心に回ることが多いと思うので、献血バスの数も限られていますから、相対的に、高校を回っていくということはなかなか難しいのではないかと思います。しかし、県によってはかなり高い割合で高校生に献血していただいているということは、この生徒さんたちが年齢を重ねて成人になられても、献血会場に来ていただける可能性はかなり高いということになると思います。(高校生だと)どうしても200mL献血が多いですし、なかなか地味な取組になると思うのですが、愛知県の高校、公立だけでなく私立も多く、おそらく栃木県よりもたくさんあるはずですから、教育委員会などにみんなで働きかけて、高校の理解を得るようにしていくのが良いのかなと思いました。

議長・山本会長

ありがとうございました。

次に、一般社団法人愛知県病院協会の錦見委員いかがでしょうか。

一般社団法人愛知県病院協会・錦見委員

私自身は、どちらかという供給者ではなく利用者という立場が大きいです。今のところ、当院ではお願いしたものは入ってきておりますし、その中で余剰になったものに関しては、院内で処理できるような体制を持っております。

供給側のことについては、申し訳ないのですが、あまり把握できていないこともありますので、これから把握させていただこうと思っております。

議長・山本会長

ありがとうございました。

続きまして、愛知県議会福祉医療委員会委員長の杉浦委員いかがでしょうか。

愛知県議会・杉浦委員

今、色々お話を聞かせていただいたところ、やはりこれからは若年層だということですね。先ほどのお話にもございましたけれども、私も「ラブラッド」アプリをダウンロード

ードして使ってみようと思ったのですが、このアプリがこれから非常に重要なものになってくるのだらうと思います。

私も高校生の頃に献血をしました。その後、大学に行って、留学して帰ってきたら、ヤコブ病だとかで献血ができなくなったんです。その後、2回ぐらい献血に行ったのですができませんでした。この会議の前に、自分は今、献血できるのかを調べてみたら、2024年5月からできるようになったようでした。こういったことを我々は知らないのです。もう2回も断られているからまだ献血の制限が解除されていないだらうと思うわけです。ですから、そういった情報がプッシュ通知でわかるようになれば良いと思います。

また、本日の会場にも「はたちの献血」のポップな広告がありますけれども、若年層がもっとフランクに、簡単に献血に取り組める雰囲気づくりだとか、献血をすると何かポイントがつくとか、できれば電子マネーみたいなもので返ってくると非常に良いのかなと思います。例えば400mL献血をしたら、私が高校生の頃はあんぱんと牛乳がもらえたと記憶しておりますが、もっと違うものがもらえるとか、あるいは年間を通して貢献度が高ければ高いほど何か良いものがもらえるというようにしていくと、献血する気持ちが前向きになってくるのではないかと思いますので、検討していただけたらと思います。

議長・山本会長

貴重な御意見ありがとうございます。

血液センターの方からコメントはありますか。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一部長

キャンペーン等は引き続き行っていきたいと思っております。

ただ、金銭のであつせんは法律の関係で取り扱うことができない部分がございますので、それに代わるものということで、随時検討をしていきたいと思っております。特に若い方に喜ばれるようなものを準備していければと考えております。

議長・山本会長

次に、中日新聞社の坂口委員いかがでしょうか。

中日新聞社・坂口委員

今日は学生献血連盟の岡田さんが来ていらっしゃるので、御示唆いただきたいと思って参りました。新聞は御存じのとおり、オールドメディアとも言われておりますし、きちんと読む読者層というのは50代より上となっております。その中で、例えば地域の献血に関わるイベントなどはまめに取材をさせていただいて、地方版にも載せて、読者からの質問があった時には答えるような形で特集を組んだりしているのですが、20代

から 40 代に新聞の記事がどこまで届いているのか、逆にどのように発信していけば、正しい情報を読んでほしい人、特に若い人たちに届けられるのか、何か意見をもらえたらと思います。

また、私どもも子ども記者を集めて色々な職業体験をしていただいているのですけれども、血液センターの見学等をやっているというのは、子どもたちの意識にとっても良い記憶として残ると思います。ですので、もし可能であれば規模を拡大し、また、新聞社の子ども記者も関わらせていただけるような形になると良いのかなと思いました。

議長・山本会長

ありがとうございました。

岡田委員からは後ほど御意見を伺いますので、お願いします。

では次に、ライオンズクラブ国際協会 334-A 地区の奥村委員いかがでしょうか。

ライオンズクラブ国際協会 334-A 地区・奥村委員

ライオンズクラブの奥村と申します。

ライオンズクラブ自体は、献血に対しての実行部隊だと思っております。その中で先ほどお話が出ております学生献血、もしくは若年層への献血については、大分増えております。こちらの方でも、高校に出向いて採血させていただく、もしくは卒業記念に採血をさせていただくということも多数ございます。

実行部隊としての要望といたしまして、「ラブラッド」の活用等で献血をもっとスムーズにしたいと思っております。実際に献血をしたいと言って会場に来ていただいた方が、実際に献血ができるかどうかを確認した段階でできないというケースが多々あります。ですので、それを事前に検知できるのであれば、よりスムーズになるのではないかと考えております。

また、こういった会議で決められている今年度の指針に関連して、こうしていただきたいという要望がございましたら、キャビネットの方に出していただくと、会としてもスムーズに動くことができると思いますので、ぜひ意見をいただきたいと思っております。

議長・山本会長

ありがとうございました。

「ラブラッド」に関しましては、先ほど杉浦委員からも御指摘いただいておりますが、血液センターの方からコメントをお願いしてもよろしいですか。

愛知県赤十字血液センター・長谷川献血推進課長

愛知県赤十字血液センター献血推進課長の長谷川と申します。

「ラブラッド」の活用につきまして、御意見をいただきありがとうございます。

まず、事前の問診につきましては、御自身でなかなか判断できない部分があるかと思いますが、チャットボットを御利用いただきまして、例えばこういった薬を服用しているが献血が可能かというような入力をしていただきますと、その場で回答が出てくるといったようなことがございますので、ぜひ御利用いただけたらと思います。ただ、最終的な判断は当日の献血会場における検診医師によるものとなりますので、御承知おきいただけたらと思います。

また、「ラブラッド」を活用して事前に問診の回答も行ってい ただけます。献血の当日朝6時以降に、御自身の携帯電話から入力いただき、当日献血会場にお越しいただきますと、受付後すぐ検診医師の問診へ御案内するという ことで、スムーズに運ぶよう取り組んでいるところでございます。

議長・山本会長

ありがとうございました。

続きまして、名古屋市地域女性団体連絡協議会の伊藤委員いかがでしょうか。

名古屋市地域女性団体連絡協議会・伊藤委員

名古屋市地域女性団体連絡協議会の伊藤と申します。

資料4ページを見ると、不採血者数が約1割となっています。先ほどのお話にもありましたけれども、会場へ行かれて、だめだった人が約1割という数字ですね。

実を言うと、私は若い時、血が薄いと言われて、不採血者でした。女性の方や、栄養状態ということで言えば高校生でも、おそらく血が薄いという方が多いと思いますし、この1割というのはかなり高い率ではないかと思っています。

今日の午前中に会議があって、若い方に会ったのですが、昼から献血の会議があるんだよと言ったら、献血をやったことがないと言うので、どうしてと聞いたら、場所がどこかわからないとのことでした。名古屋駅に行くと、20何階にすばらしい施設があるんだよと教えてあげたんです。駅前には献血車よりもきちんとした固定施設がありますよね。それをもっと皆さんに広報していただきたいと思います。

また、我々は名古屋市で成人式を仕切っております。その時の配布物にリーフレット「はじめての献血」がいつも入っているのですが、彼らは見ないです。やはり大きいポスター等の広報物があれば、彼らも見て、献血をやろうかなと思うと思いますので、ただチラシを入れるだけではなくて、皆さんにわかるような広報をやっていただきたい と思います。

議長・山本会長

貴重な御意見ありがとうございます。

広報活動に関して、血液センターの方から何かコメントはありますか。

愛知県赤十字血液センター・桜井事業推進一副部長

愛知県赤十字血液センターの事業推進一副部長の桜井でございます。

御意見ありがとうございます。血液センターとしても色々なところで広報を行っているところがございます。今の若い方は趣味が多岐に渡っているということがあり、先ほど中日新聞社の御発言にもありましたけれども、若い方は新聞を読まず、SNSを見られますので、そういうところにも広報を出させていただいたり、先ほど取組として紹介のあった「卒業献血キャンペーン」は地下鉄の中に流れるデジタルサイネージで広報を行ったりしています。また色々な御意見をいただけたら、参考にして取組を進めていきたいと思っております。

議長・山本会長

ありがとうございました。

次に、愛知県地域婦人団体連絡協議会の倉本委員いかがでしょうか。

愛知県地域婦人団体連絡協議会・倉本委員

愛知県地婦連の倉本と申します。

地域婦人団体連絡協議会は、赤十字奉仕団の母体となっているところが多く、私は大府市なのですけれども、大府市の婦人会も赤十字奉仕団の母体となっています。

私がこの会議に出席させていただくのはもう3年目だと思うのですが、何か若年層への取組でできることはないかと数年前から考えておりました、今年2月と3月に、あるイベントを行う予定としております。公民館が主催する「おこしもの」づくりという、愛知県には昔から「おこしもの」というお団子みたいものがあるのですが、それを親子でつくる講座があります。ちょうど「おこしもの」を蒸している時間が30分から40分ぐらいあるそうなので、その間に「おこしもの」づくりにいらっしやっただお子さんと親御さんたちに対して、赤十字奉仕団から血液のお話ができないかということで、公民館の館長に賛同いただき、行うことになりました。私たちはほとんど素人に近いので、赤十字奉仕団の担当であります愛知県支部社会活動推進課の方から資料とパワーポイント、子どもたちに渡すノベルティをいただき、これで血液のお話ができると良いかなと思い、色々と資料を練っているところです。

また、本日、血液について勉強させていただくような講座があると伺いました。赤十字奉仕団は献血に参加しているところもありますので、よろしければお声掛けいただき、勉強させていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

この2月、少し頑張ってみようと思っております。

議長・山本会長

ありがとうございます。

血液を身近に感じていただくというのは非常に大事なことだと思います。最近「はたらく細胞」というアニメで若年層にかなり血液の話題というのが広まりつつあるのかなと思います。血液センターとしてもより一層そういった機会を増やしていければと思います。

次に、愛知県学生献血連盟の岡田委員いかがでしょうか。

愛知県学生献血連盟・岡田委員

愛知県学生献血連盟としては、大体 150 名から 200 名ほどのボランティアと一緒に、イオンモールなどを利用させていただいて、年 3 回献血キャンペーンを行っております。

先ほど、どうやったら若年層にニュースや新聞を見ていただけるかという御質問がありましたので、個人の見解とはなりますが、少しお答えできたらと思います。

私も普段ニュースは基本的に紙ではなくて Web で見ることが多いのですが、見出しの中から自分の興味があるものを選んでいくという形になるので、紙ほど満遍なく目を通すことはできないのかなと思っております。

どうやったら見てもらえるかですが、献血というジャンルが、なかなかみんなが見てくれるようなジャンルではないというのが現実かと思っております。例えば、愛知県学生献血連盟の活動やキャンペーンにお越しいただいた献血に関心がある方に、Web のニュースで献血について発信しているということをお伝えすることで、より知識を得ていただけるのではないかと思います。

また、先ほどのお話で、若年層への普及啓発や複数回献血していただくことが課題となっているとのことですが、若年層に普及するにあたっては、自分ごとと捉えてもらえると良いのかなと思います。実際に私の友人にも、学内献血の際に、良かったら献血してみてねと言うと、今まで献血をしたことなくても献血してくれたということがあったので、家族や友人と、世代の垣根を越えて献血について身近に話していくと、より若年層にも普及啓発していけるのではないかと思います。

また、若年層の栄養状態の観点から、献血をやってみようと思ってもできなかったということも多いので、健康づくりの部分から発信できると良いかと思いました。

議長・山本会長

ありがとうございます。

やはり若年層への普及啓発という点では SNS の活用は欠かせないと思います。血液センターとしても如何に SNS でアピールしていくかということが非常に大きな課題ですので、来年度しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

続きまして、愛知県公立高等学校長会の久保田委員いかがでしょうか。

愛知県公立高等学校長会・久保田委員

愛知県公立高等学校長会、松蔭高校の久保田でございます。

先ほどから若年層への普及啓発ということで、まさに高校がそのターゲットになっているなということをひしひしと感じているところです。

先ほどの資料にも、県内で17校が献血に参加しているというお話がありました。県内には、県立や名古屋市立等を含めて、公立高校が164校、国立が2校、私立が50校以上あるということで、200校以上あります。そういった学校の生徒が協力をするという形で献血に参加できるような啓発を進めていただけると、大変良いのではないかと思います。

また、現在も校長会に献血のPR等にお越しいただいておりまして、各地区から各学校にチラシ等を配るような案内をしております。そういう機会がもっと増えて、生徒が身近に献血できる環境というものが整ってくると良いのかなと思っています。学校としては、一番献血ができる機会という、やはり学校祭のシーズンだとか、そういった企画の中に入れていくというのが1つのパターンではないかと思います。

また、特に女子生徒などは世間の流れに敏感でして、色々なブームに影響を受けると思います。そういったものと何かリンクができるようなものがあったりすると、献血をもっと身近に感じたり、進んで献血ができるような環境が整ってくるのではないかと思います。

また、私も教員としても、献血にお手伝いできるような機会や、血液について勉強する機会がございましたら、参加できるよう御案内いただければ、積極的に広報をしていきたいと思っています。

議長・山本会長

ありがとうございました。

続いて、愛知県教育委員会の祖父江様いかがでしょうか。

愛知県教育委員会・祖父江氏

愛知県教育委員会保健体育課長の祖父江でございます。

まず、教育委員会の取組を御説明したいと思いますが、今年度に関しましては、5月に文科省から献血に関する通知を受け、日本赤十字血液センターの出前講座や学校献血など、理解増進に向けた取組を進めるよう小・中・高校に通知を出しました。これを受けて、養護教諭を中心に、学校の保健委員会活動などで啓発活動をしたり、学校内でポスターを作ったり、パネル展示をしたり、献血に向けての理解を深めております。

また、12月には保健医療局から依頼を受け、本日の資料7ページにございましたポスター及びチラシをすべての県立高校に配布しております。このポスター及びチラシに

は、先ほどから何度か出ております「ラブラッド」アプリや、献血ルームの場所などもQRコードで掲載されていますので、学校によっては、すべての生徒に電子データで配布しているところもございます。

また、学校の中には卒業献血として、学校に献血バスを呼んで卒業する3年生に献血をしてもらうといった啓発をしているところもございます。

議長・山本会長

ありがとうございました。

続いて、市長会を代表しまして、豊川市の木内委員いかがでしょうか。

市長会・木内委員

市役所の方でも、献血会場として、献血の協力をさせていただいております、私のいる豊川市でも協力しております。

実際に献血されている方を見ると、結構職員が多いかなというのは思うところではありますが、市役所にお越しいただく方にも献血のことを知っていただき、御協力いただくということで協力させていただいております。

別件ですが、高校生の献血で思い出したことがありましたので、お話ししたいと思います。今年の献血目標でも若年層への普及が謳われていて、はたちの集い等でもPRするというのですが、高校生についても16歳から献血ができるということで、数年前、私の知っている当時の高校生が16歳になり、子どもにはできないことということで献血を始めたということがありました。彼が献血を始めて、近くには献血会場がないので、自転車で隣の豊橋市の方まで行って、血液センターで献血をやったりしていたら、仲間が集まってきて、何だか大人になったように感じたりだとか、お菓子やジュースをもらえたりするとかすごく特別な感じがするようなこともあって、仲間を引き連れていくうちに増えていって、ある程度の人数で献血に行くようになっていきました。そうなった時に、学校に献血バスを呼べないかという話が出て、先生だったか血液センターの方だったか、大人に相談したということがありました。結果として形にはならなかったのですが、こういった最初の行動、動機づけとか、献血をやりたいと思っている子たちもたくさんいるんだなということを思った出来事でした。

先ほど久保田委員もおっしゃっていましたが、高校生とか、特に田舎の移動手段があまりないような子たちも気軽に献血ができるような環境ができると、高校生の献血してくれる子たちが、しかも複数回してくれる子たちが増えるのではないかと思います。

議長・山本会長

ありがとうございました。

高校をはじめとした学域への献血バスの配車については、血液センターも来年度の非

常に重要な課題だと思っておりますので、積極的に進めていきたいと思っております。
次に、町村会を代表いたしまして、大口町の近藤委員いかがでしょうか。

町村会・近藤委員

町村会からまいりました、大口町長寿ふくし課の近藤と申します。

今、木内委員もおっしゃられたのですが、各自治体ですと、それぞれ市役所や町役場における職員の協力であったり、地域の方にお越しいただいての献血、また、町内企業や、お隣の扶桑町と大口町にはライオンズクラブもありますので、ライオンズクラブとのコラボで献血をさせていただいたりといったようなところが多いかと思えます。

他の自治体のことがわからないので恐縮なのですが、本町ですと、今年度9月に、民生委員児童委員の研修で、赤十字血液センターへ研修に行かせていただいた経緯がございます。その時に私は御一緒させていただくことはできなかったのですが、帰ってきた後の振り返りの会で、献血した後、どのようにして血液が患者さんのもとに届くのかを知らなかったという声がとても多く、研修で学べて良かったというお話がありました。また、若いうちからの啓発が必要だという声、地域の方から出ていた声で一番多かったと記憶しています。民生委員児童委員の皆様ですと、ある程度の年齢の方たちですので、お伺いした時に献血に御協力するというのは叶わなかった方が多かったのですが、自分たちはできなくても、家族に勧めようと思ったといった御意見もたくさんいただきました。

私たちの自治体でできることという、なかなか直接的な御協力は難しいのかもしれないですが、地域住民の皆さんに対する啓発や広報活動の支援ができると良いかと思っております。

議長・山本会長

ありがとうございました。

やはり広報啓発活動にもっと力を入れないといけないと思っておりますので、血液センターとしても、引き続き努めていきたいと思えます。

最後に、血液センターの方から追加で意見を願います。

愛知県赤十字血液センター・鈴木事業推進一部長

血液センターの鈴木でございます。

若年層対策についてですが、愛知県では、高校生及び大学生を対象とした献血セミナーを中心に進めていきたいと考えております。

また、大学生を中心に学内献血、今年度は実施回数を増やして、大学生の協力を得ております。学生献血連盟様の御協力、学内での声かけ等も非常に効果的にしていただいた結果でございます。

また、血液センターとしては、初回献血後、献血ルームに足を運んでいただくような取組を進め、継続的な協力につなげるように努力をしていきたいと思っており、中長期的な献血基盤の強化を図っていきたいと思います。

また、皆様方も、是非ともこういった取組を若い方に伝えていただきたいと思います。若年層の協力が上手く得られないと、将来の献血基盤の縮小につながってしまいますので、継続が不可欠だと考えております。これからも御協力のほどよろしく願いいたします。

議長・山本会長

ありがとうございました。

では、ただ今御発言いただいた以外の方で、議題に対する御意見、御質問等がございましたら御発言をお願いいたします。

(発言なし)

よろしいでしょうか。

では、皆様、「令和8年度愛知県献血推進計画(案)」について、事務局案を御承認いただけますでしょうか。

(一同異議なし)

ありがとうございます。

それでは、事務局は、今回承認された案について、国の計画が官報に掲載されましたら、必要に応じて修正の上、令和8年度愛知県献血推進計画を作成してください。

最後に、3のその他ですが、事務局から何かございますでしょうか。

医薬安全課・杉浦主査

事務局の方から1点事務連絡させていただきます。

作成した令和8年度愛知県献血推進計画については、3月下旬に医薬安全課のWebページで公開する予定ですので、御承知ください。

以上です。

議長・山本会長

ありがとうございました。

それでは、以上で本日の議題はすべて終了しました。

せっかくの機会でございますので、事務局からの説明以外で何か御意見、御質問等、

最後に御発言がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

(発言なし)

よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして、「令和7年度愛知県献血推進協議会」の議事を終了させていただきます。皆様の御協力によりまして、滞りなく議事が進行いたしましたことを厚く御礼申し上げます。

進行を事務局にお返しいたします。

医薬安全課・濱島担当課長

それでは、協議会の閉会に際しまして、愛知県保健医療局長の長谷川から御挨拶申し上げます。

保健医療局長・長谷川委員

まずは遅参いたしましたこととお詫び申し上げます。

本日はお忙しい中、「令和7年度愛知県献血推進協議会」に御出席いただき、誠にありがとうございました。

皆様から貴重な御意見を大変たくさんいただき、大変有意義な時間となりました。

本日いただいた御意見を活かし、次年度も献血の推進に尽力してまいりたいと思っております。

献血推進のためには、皆様のお力添えが必要でございます。引き続き、愛知県の献血推進への御協力をお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

医薬安全課・濱島担当課長

以上をもちまして本日の協議会を終了したいと思います。

ありがとうございました。